

表8 Plan/Do/Check/Actionで記録を書く時のポイント

書き始める前に	記録に記す概要を明らかにする
	<ul style="list-style-type: none"> ① 記録の「目的」を明確にする ② 記録に残したい「主張」を明確にする
Plan	主張を根拠づける情報を客観的に記す
	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭訪問の目的や、他の保健師に伝えたいことに沿った事実を整理する ② 事実を内容ごとに分類する ③ 事実と意見を区別し、客観的に記す ④ 対象者の生活や考え方、価値観を表す事実を吟味し選び出す ⑤ 保健師の助言、指導、今後の見通しを根拠づける事実が書かれているか見直す
Do	保健師の実践を記す（実践とは、情報提供、助言・指導、他機関連絡）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的に対応した保健師の言動や行為を記す ② 保健師の実践の意図を記す ③ 保健師の言動を要約あるいは必要に応じてそのまま記す ④ 保健師の実践を根拠づける事実が、Planで書かれているか見直す
Check	保健師の実践に対する対象者の同意や反応を記す
	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健師の実践の評価として、対象者の反応や同意を記す ② 対象者の言動を要約もしくは必要に応じてそのまま記す ③ 今後の見通しや計画を記す ④ 今後の対象者とのかかわりの頻度、接触方法や期間などを記す ⑤ 現在不明な点や今後必要な情報収集の内容を記す
Action	記録全体を評価し、改善点を考える
	<ul style="list-style-type: none"> ① 記録の目的は明確か ② 他の保健師に伝えたいことは明確か ③ 事実と意見は区別されているか ④ 客観的に記されているか ⑤ 実践の根拠となる事実は記されているか ⑥ 実践に対する対象者の反応は記されているか ⑦ 保健師の意図や今後の見直しは記されているか ⑧ Plan/Do/Check/Actionのつながりはあるか

文献1) P31より一部改変

IV 具体的な記録の書き方

1 明確で具体的な表現をする

自分以外の人が見ることが前提である。見たまま、訴えられたままを記録する。

例) 「部屋が散らかっている」



「食卓には食事の食べ残しがそのままになっている。

床には、足の踏み場もないほど袋に詰められたゴミや衣類が置かれている。」

2 情報を整理して書く（情報源を正しく書く）

- ・誰の発言か。

- ・家族関係を表す時には、本人を起点に家族関係を記載する。
- ・あいまいな表現にしない。
- ・家族が本人から聞いたことなのか？本人が保健師に話をしたことなのか。

3 見ただけで、何が書いてあるのか理解できるようにまとめる

- ・訪問の目的に沿って観察したこと、対象者の発言など小見出しを付けるなどしてまとめて記載する。
- ・保健指導の具体的な内容を記載する。
- ・対象者や家族の経過や反応を記載する。

4 今後の支援計画を記載する

- ・保健師の行った支援に対する対象者の反応や決定したことを記載する。
- ・今後の支援計画を記載する。
- ・“いつ頃、何を、どうする”の視点で記入しておく。

表9 書き方のポイント 事実と判断を区別して、客観的に書く

1 書き方のポイント 1 (原因／生活への支障／判断結果)

～(原因)のため、～(日常生活への支障)があるので、～(判断結果)とした。

<事例1> 事実

食卓には、カップラーメンや食卓には食事の食べ残しなどのゴミが周辺に散らばり、ゴミ箱は溢れている状態で、足の踏み場もないほどで、タンスの引き出しからは衣類がはみ出ており、部屋は散らかり、日常生活は荒れている様子がうかがえた。

原 因 生活への支障 判断結果

2 書き方のポイント 2 (具体的回数／行動／判断結果)

その行動がいつ、どのような時にあり、1日／1時間／1か月に何回くらい起こるのかを具体的に示す。

<事例2>

月に3回ほど市役所の窓口に「時間どおりにヘルパーが来ない」というヘルパーへの不満を訴える電話をしてくるので、時間通りに来ないヘルパーへの不満があるとした。

具体的回数 行_動 判断結果

文献1) P37 より一部改変

保健師記録は、「相手の訴えを聞き、見てアセスメントしたことに対し考えて、どういう支援をしてどんな反応であったのか。その一連の流れを落とし込んでいくもの。」